

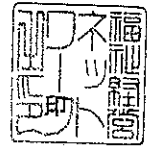
東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0074
所在地 千代田区九段南3-4-5
番町ビル7A

評価機関名 特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

認証評価機関番号
電話番号 03-5211-8710
代表者氏名 南端 常雄

機構 02 - 010



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0403065
	②		福祉	H0201011
	③		福祉	H0304004
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害者支援施設			
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)			
<input checked="" type="checkbox"/> 施設入所支援				
評価対象事業所名称	障がい者支援施設みずさわ		指定番号	1415500246
事業所連絡先	〒	216-0012		
	所在地	川崎市宮前区水沢3丁目6-50		
	TEL	044-978-3238		
事業所代表者氏名	施設長 大和田 伸也			
契約日	2016年 7月 5日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016年 9月 16日			
利用者調査結果報告日	2016年 10月 4日			
自己評価の調査票配付日	2016年 9月 1日			
自己評価結果報告日	2016年 10月 4日			
訪問調査日	2016年 10月 11日			
評価合議日	2016年 10月 11日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	職員には職員自己評価に関する説明文を配布し、第三者評価の趣旨と自己評価手法について理解を深めた。利用者調査は、事業所と協議のうえ、アンケート内容の理解が難しい利用者や、会話が困難な利用者、当日体調不良の利用者を除いた全利用者を対象とした。なお、面談を行ったが有効回答が得られなかった利用者もいた。調査は、ボランティア室や理美容室など、話を聞きやすい場所で評価者が個別に聞き取りを行った。報告会は資料を作成し実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

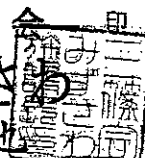
- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。
- クリア

28年 11月 28日

事業者代表者氏名 社会福祉法人 三 篠

障がい者支援施設 みずさわ

施設長 大和田伸也



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 事業計画をそれぞれの係・委員会で進めていく 2) みずさわの倫理綱領の実践 3) 利用者等の呼称についての意識統一</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割 みずさわの倫理綱領の実践と共に、職員自身のプライベートも大切にする者</p> <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 利用者の支援は、計画し実行し見直すことを継続しないとけない。そのサイクルの「継続」が支援の重要であることを理解し、個別支援を実施してほしい。日々の積み重ねが、自身のスキルとなり利用者の生活の質の向上に繋がることを理解してほしい。</p>

調査対象	事業所と協議のうえ、アンケート内容の理解が難しい利用者や、会話が困難な利用者、当日体調不良の利用者を除いた全利用者を対象とした。なお、面談を行ったが有効回答が得られなかった利用者もいた。
調査方法	ボランティア室や理美容室など、話を聞きやすい場所で評価者が個別に聞き取りを行った。

障害者支援施設全体

	利用者総数	80	
	共通評価項目による調査対象者数	15	15
	共通評価項目による調査の有効回答者数	14	14
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	17.5

生活介護

	利用者総数	79	
	共通評価項目による調査対象者数	15	15
	共通評価項目による調査の有効回答者数	14	14
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	17.7

入力不要
自立訓練(機能訓練)

	利用者総数			
	共通評価項目による調査対象者数	アンケート	聞き取り	計
	共通評価項目による調査の有効回答者数			0
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	0.0	0.0

自立訓練(生活訓練)

	利用者総数	1	
	共通評価項目による調査対象者数	1	1
	共通評価項目による調査の有効回答者数	0	0
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	0.0

入力不要
就労移行支援

	利用者総数			
	共通評価項目による調査対象者数	アンケート	聞き取り	計
	共通評価項目による調査の有効回答者数			0
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	0.0	0.0

入力不要
就労継続支援(A型)

	利用者総数			
	共通評価項目による調査対象者数	アンケート	聞き取り	計
	共通評価項目による調査の有効回答者数			0
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	0.0	0.0

入力不要
就労継続支援(B型)

	利用者総数			
	共通評価項目による調査対象者数	アンケート	聞き取り	計
	共通評価項目による調査の有効回答者数			0
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	0.0	0.0

施設入所支援

	利用者総数	79	
	共通評価項目による調査対象者数	15	15
	共通評価項目による調査の有効回答者数	14	14
	利用者総数に対する回答者割合(%)	0.0	17.7

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-5	利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている
タイトル①	地域との交流を深め、関係性を構築したうえでの地域移行を目指している	
内容①	事業所が主催する夏祭り開催時には広く地域住民の参加を呼びかけ、今年度は約400名の参加を得る等、利用者が地域との交流を深めることができるよう取り組んでいる。また、地元行事のお知らせを利用者に伝えお祭り等に職員と参加している。さらに、地域の自治会や近隣の他法人等と連絡会の立ち上げにも参画し、地域ネットワーク構築にも力を入れている。これらの取り組みを通して利用者が地域の一員として生活できる環境を整えとともに地域との関係性を構築して、利用者が地域移行した際に充実した生活が地域で営めることを目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル②	新施設長の就任と開設10年目を機に、業務全体の見直しに取り組んでいる	
内容②	新施設長体制になったことと事業所の開設10年目の節目にあたることから、施設長はこれまでの業務運営について一度立ち返って精査することを職員に伝えている。サービス内容、食事サービス内容等業務全体について実施していることの内容を改めて確認して、利用者の意向及び事業所内外の環境等を踏まえ、廃止するものと新たに追加すべきものを抽出することを考えている。その取り組みを通して、一層のサービスの質向上を図りたいとしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-1-2	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている
タイトル③	第三者評価受審等により事業所の透明性を高める取り組みに努めている	
内容③	事業所の透明性を高めるために、町会、他の福祉施設、社会福祉協議会等に広報誌を配布している。また、傾聴ボランティア、実習生、協力委員等外部の者を受け入れたり、多目的ホールを開放して地域住民が事業所を利用することで交流の機会を設けている。さらに、今回、第三者評価を受審して外部から見た事業所の良い点、改善点を確認するとともに、評価結果をホームページで開示することを予定している。これらの情報公開、外部の者や第三者の導入等の取り組みにより、透明性が高まるように努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	外出や外食の機会を多く用意し、利用者が社会参加する機会増加を図っている
	内容	利用者が事業所以外でさまざまな経験をするを旨とし、年間を通して外出や外食の企画を小グループ単位で多く用意するとともに、バスや電車等の公共交通機関を利用する等の社会体験を意図的に盛り込む等、工夫に努めている。また、事業所では、週末に近所のコンビニエンスストアに出かけて買い物をすることが習慣化しており、外出等に対する希望の声が利用者から自然と挙がるようになっている。事業所としても、その声にできる限り応えるために外出や外食等をさらに企画することで、利用者が社会参加する機会増加を図っている。
2	タイトル	配膳方法やメニュー等で食事を楽しむ工夫がされ、栄養ケアマネジメント導入で健康状態に合った食事の提供にも努めている
	内容	約10名程の利用者が集まって生活するユニット方式で開設された事業所であり、食事はそれぞれのユニットの食堂で一緒に食べている。家庭に近い食事となるように、ご飯は厨房からおひつにいった状態で各ユニットに運び、直前に職員が盛り付けて提供する等の工夫がなされている。献立についても、誕生日メニューやイベント食に加えて、全国各地のご当地メニューを企画する等、バラエティに富んだものとなるように努めている。さらに、年度途中から栄養ケアマネジメントを導入し、健康状態に合わせた食事の提供も始めている。
3	タイトル	地域福祉への貢献に向けて、さまざまな取り組みがなされている
	内容	地域住民にとって必要な存在になるように、事業所機能の社会化を図ること、各行事に気楽に参加できる雰囲気作りに努めることをサービス提供方針の中で明示している。その取り組みの一つとして、放課後デイサービス・種原ゆ〜ず連絡会、合唱クラブ、サッカークラブ等に多目的ホールや駐車場を貸し出している。また、地域ネットワークによる講座開催や精神保健福祉ボランティア講座で施設長が障害者支援・ボランティアについて講義をするるとともに、震災発生時には避難場所として多目的ホールを開放する他、車イスの貸し出しもできるよう準備している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	将来のビジョンや目指す方向性を明確にした事業所としての中・長期計画の作成に取り組まれない
	内容	事業所が今後していかなければならないこととして、利用者の重度化・高齢化に伴う対応、地域生活をサポートするグループホームの開設等を考えている一方、将来のビジョンや目指す方向性を職員等に示した中・長期計画として策定するまでに至っていない状況がみられる。法人との調整が必要な事項や整備計画について市と協議する必要がある領域もあるが、これらの単年度では実施できない課題・目標に対しても着実な準備を図るうえで、中・長期計画を策定していくことに取り組まれない。
2	タイトル	作成されているマニュアルについて、定期的な見直しのしくみ作りに期待したい
	内容	事業所では「障がい者支援施設みずさわマニュアル集」を作成し、職員間で標準化すべき基本事項をとりまとめ、倫理綱領・行動規範を記載した支援人研修資料や入浴・服薬援助等支援に関するものや、リスクに関するもの等が盛り込まれている。フロア会議・リーダー会議で点検・改善を行っている一方、作成日や更新日が記載されていないものが散見される。今後はこれらのマニュアルについて、見直し時期や見直しが行われたことがわかるようにして管理する等の取り組みに期待したい。
3	タイトル	保護者会の内容について、保護者全体にわかりやすく伝達する取り組みが望まれる
	内容	事業所では、保護者と情報を共有しながら利用者の意向を尊重した支援となるように努めている。保護者会と保護者懇談会がそれぞれ年10回開催されており、事業所の運営状況や支援内容等を直接説明するとともに、それぞれの保護者と個別に話をする機会を持っている。なお、保護者会への出席率が約3割弱と少ない状況が続いている。また、欠席した保護者に対して会議録等を作成して送付する取り組みにまでは至っていない。今後は保護者会の内容を保護者全員に向けてわかりやすく情報提供するしくみを構築していくことが望まれる。